



## 運動会全体練習①

今日14日(火)は、運動会の第一回全体練習が行われました。今日は、開会式の練習に取り組みました。その際、私の方からは、「この運動場という舞台の上では、皆さん一人一人が主役です。お家の方や地域の方々が観に来られますが、主役である皆さんのことをしっかり見られます。成長した姿を発揮するためにも、主役らしく舞台の上で振舞ってください。また、運動会に向けて一人一人がめあてを立てて、自分を成長させて欲しいと思います。」と話をしました。また、体育委員長の清水さんからは、「今日の全体練習では、姿勢を正しく全体練習を頑張りましょう!」と呼びかけてくれ、振り返りでも「皆さん、とても姿勢よく真剣に取り組んでくれたので、帯西レッドの心が伸びたと思います。」と皆に伝えてくれました。今日は、初の運動会の全体練習でしたが、子供たちの運動会に向けてのやる気が伝わってきました。これから、運動会に向けて、自分なりの「めあて」を立てて、自分自身の成長に繋げて欲しいと思います。運動会が終わって自分のめあてを振り返ったときに、「帯西レンジャー」の様々な心が伸び、成長を実感できる子供たちに育てて欲しいと思います。このように、学校では、子供たちがめあてに向かってがんばる姿をしっかりと認め、成長を共に喜び合いたいと思います。



## ●ひこうきぐも✈ vol.28

中国への旅は、いつものように、突然の衝動に駆られて決めました。一度決心したらもう止まらない性分でしたので、家族へは「中国に行く。」とだけ告げて、格安航空券を求めて旅行店へと向かい、4日後には出発の手はずを整えました。このとき、私の家族は日本の中国地方へ行くと思っていたらしく、後で中国とは、「中華人民共和国」のことだと知って、みんな口々に「騙された。」と言っていました。しかし、祖母だけは初めから中国に行くことを真剣に聞いていてくれました。というのも戦時中、祖母たち(父は当時小学生)は、旧満州国で暮らしていました。そして、祖母はよくその時の様子を懐かしむように話してくれていました。ですから、私が中国に行くことを教えたとき、祖母は「ばあちゃんも一緒に行きたかねー、よかねー。」と何度も口にしていました。旅に出る前日、祖母と一時の別れを告げ、私は中国へと一人旅立ちました。

そして北京に降り立ったのです。いざ中国に着くと、日本と同じく漢字が使えるので、今までの旅より楽チンだと安易に考えていましたが、その考えは大きく崩れ去りました。漢字が分からない!略字や小難しい漢字、日本語とは意味の違う漢字…etc。それに一番困ったのは、私の片言英語がなかなか通じないことです。

ほとほと参って、北京で宿をとり、疲れた体(とにかく歩いた!)は、すぐに眠りに落ちました。そして、寝ていると不思議な夢を見ました。祖母が何を語るでもなく、ずっと微笑んでいるのです。そういえば生まれて初めて祖母の夢を見たような気がしたので、珍しいこともあるなあー、と思いつつも妙な胸騒ぎがしたので、朝から国際電話で日本に連絡することにしました。しかし電話をかけても電話交換手が「ニーハオ。」と思いきり中国語で英語が通じないのです。そこで連絡は潔く断念しました。その頃日本では、祖母が「くも膜下出血」で倒れ、病院に担ぎ込まれていたのです。延命装置を取り付けられ、家族・親戚一同が集まり、私と連絡を取るべく、中国の日本大使館に電話したそうです。当然ながら「10億人以上いるこの中国で一人の日本人の旅行者を探すのは不可能です。」と言われたそうです。私以外の親族が集まったところで、延命装置は外され、祖母は終わることのない長い旅に出発したのです。何も知らない私が日本に帰ると、祖母は仏壇の遺影の中で夢の中と同じ微笑を浮かべていました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木がバックパッカーとして旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは一昨年度からの累積です。